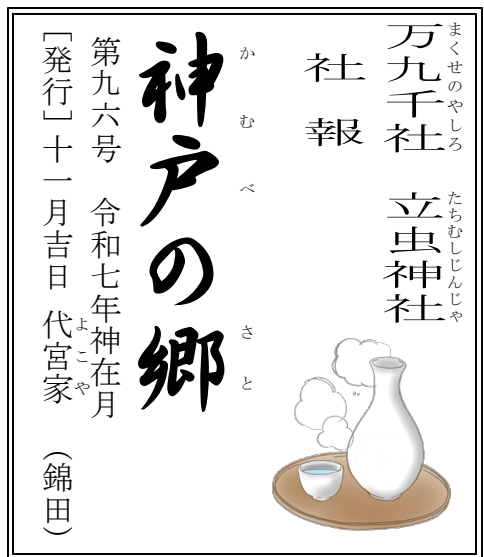




今季の祭 その一

万九千さん

全国では神無月とよばれる旧暦十月を出雲地方では神在月と呼び慣わしてきました。

日本中の八百万神が^{やおよろずのかみ}出雲へ参集されると伝えられているからです。

私たちがお祀りする万九千社は、神々が神議りの締めくくりと直会^{なほらひ}を催し、明朝早くに諸国へとお旅立ち（神等去出^{かみらさで}からさで）なさると伝えてきました。

日本中の神様が、私たちの住まい

するこの土地のお宮へとご参集になられることは誠に尊くありがたいことです。

皆様おそろいでお参り下さい。

一、龍神祭、お忌み入り

十二月六日（土）早朝

※旧暦の十月十七日

龍蛇^{りゅうじや}の神さまを先導役とし八百万神を斐伊川でお迎えする祭です。古くから、宮司一人が人知れず行う秘儀とされ、夜明け前に斐伊川の水辺で行います。

水辺での神事が終わると、宮司は神籬^{ひもぎ}（榊の木）に遷られた神々を万九千社へと御案内します。朝日が東の空に昇る頃、神迎祭の祝詞を奏上し、当社はお忌みの期間に入ります。



（写真撮影・提供〓古川誠氏）

一、神在祭 お忌みさん

十二月六日（土） 十二月十五日（月）

※旧暦の十月十七日～二十六日

毎日九時～
十六時半頃

随時 特別祈禱、
神在みくじ等

日本中の八百万神さまは、当社に十日間参集して人々の縁結びや天下泰平、五穀豊穰、諸産業の繁栄など生きとし生けるものにとって大切な事柄について話し合いをなさるとい

います。

毎日お供え物を献じ、日本と世界の平安と繁栄を祈念する祝詞を奏上します。また、この期間に参拝者の願いに応じた特別祈禱を行います。

御神酒も新暦十月下旬から旧暦十月頃の期間に限りまして、「からさでの梅酒」となります。

古来、神在祭のことを地元では「お忌みさん」と呼びました。「お忌み」とは、神々の滞在や会議を邪魔しないように、忌み慎んだ祭事や生活をすることを言います。

一、前夜祭

十二月十四日

（日）※旧暦十月二十五日
戸を閉ざした社殿内で宮司ほか数名が奉仕します。

明日の神等去出祭を前に、宮司ほかの奉仕者が神社に布団を持ち込んで一夜を過ごす、「お籠もり」の神事も行います。

これには、神々のおそばで忌み籠

もること
で、心身の清浄を
極め、靈魂を鎮める
意味があります。



十二月十五日 （月）※旧暦十月二十六日

一、大祭

・午前九時～正午頃
特別祈禱、
神在みくじ等

・午後五時～
湯立神楽
・午後六時～
神殿祭
・神等去出神事

万九千社で最も重要な祭儀です。八年前から、明治初期以来途絶えていた湯立神楽を復興しました。この神楽は、神さまの旅立ちを前に神々と人々の前途、祭場・祭員・参拝者にまつわる全てのモノ、コトを清々しく祓い清めるものです。



その後、神殿祭を行い、たくさんのお供え物をして会議の締め括りと直会（なおらい）をなさる全国の神さまを静かにおもてなします。
日没頃には、神々に明朝の旅立ちの時が近づいたことをお告げする神等去出神事を行い、今後も全国の人々の幸をお守りいただくべく御祈念します。この神事が「からさでさん」と呼ばれています。

宮司が社殿の御扉を梅の小枝で叩きながら、「お立ち、お立ち、お立ち」と三度唱えて神事を閉じます。



こののちは、神のみぞ知る時間と空間：神々の直会なほらひが始まります。私たち人間は、神々の邪魔をしないように一斉にその場から立ち去らねばなりません。

夜中に境内に入ったり、のぞき見ると神罰が下ると恐れてきました。

名物！

からさでそば

（釜揚げ）



平成三十年に復活しました万九千さん名物、**釜揚げの出雲そば**：

「からさでそば」出雲の老舗、玉木製麺、農業に励む出雲生姜屋、農家の糸賀充さんほかが出店予定です。

今季の祭 その二

十二月十六日（火）

午後二時より

一、あとまつり

一、立虫神社

新嘗祭

万九千社から神々が無事に旅立たれたことを寿ぐあとまつりと今年収穫されたお米をはじめとする新穀を万九千社と立虫神社の神々にお供えする新嘗祭を齎行します。

農業はもとより諸産業繁栄の感謝を申し上げ、人々の幸福と弥栄を祈念します。

※※※お供え、お米当番の方は、午前八時～午後二時までに、神社参集殿へお供えのうえ御参拝下さい。

神在月 特別祈願 「神在みくじ」

十一月二十日

十二月十六日

当社に古来より伝わる稲作の出来高を占う「お種組」の特殊神事に則って、出雲にお集まりの八百万神さまの御前で、祈願者お一人ずつの明年の幸福をお祈りし、吉兆（全体運・縁結・仕事・学業・色・方角・文字など）を占います。詳しくは当社公式ホームページをご覧ください。

《あとがき》▼猛暑を過ぎ、瞬く間に秋の深まりを感じるこの頃です。四季折々、先人達は、感謝と祈りを捧げる様々な神祭りと年中行事を営んできました。▼出雲の神在祭は、まさに晩秋から冬へ、北西の季節風が吹きすさび、「お忌み荒れ」「万九千さん荒れ」と呼ばれる荒天の中で行われてきました。そこには厳しい出雲の冬を乗り越え、どうか暖かな春が来ますようにという切なる祈りも込められていたようです。▼今年は十二月の神在祭。心して八百万神をお迎えします。（文責 宮司 錦田剛志）

大切なお知らせ

宗教学人立虫神社責任役員、 氏子総代の異動について（報告）

去る令和七年八月十二日、三年の任期満了に伴う責任役員「定員五名、うち一人は代表役員（宮司）」、総代「定員十二名」の交代がありました。（敬称略）

○退任総代

矢野幹雄

千家二

（昭和54年8月～令和7年8月）

※46年間奉務

うち平成13年8月～令和4年

8月の21年間は総代長奉務

竹内浩二

千家三

（昭和63年1月～令和7年8月）

※37年間奉務

高橋俊雄

千家四

（令和4年8月～令和7年8月）

※3年間奉務

石田成志

神立乙

（令和4年8月～令和7年8月）

※3年間奉務

◆新体制◆

責任役員・総代長（留任）

山根陽一

神立一

責任役員・副総代長（留任）

（兼）会計担当総代

竹内房雄

千家三

責任役員・総代（留任）

矢野俊之

神立二

責任役員・総代（留任）

坪倉良治

千家二

総代

湯原 稔（留任）

神立三

梶谷孝明（留任）

神立四

今川宏樹（留任）

神立五

大梶成美※新任

神立乙

矢野秀樹（留任）

千家一

矢野純一※新任

千家二

竹内 誠※新任

千家三

坪倉幸一※新任

千家四

退任者の方には、神社の護持運営に格別の御尽力を賜りました。

とりわけ、矢野幹雄様、竹内浩二

様には、役員、総代の重責を数十年にわたって果たされました。

この間、昭和、平成の立虫神社の二度の御遷宮と平成三〇年の幣殿拝殿改築事業、万九千社の平成の御遷宮、「令和の森づくり」事業の着手・推進など、歴史に残る大事業を氏子の気持ちをとりまとめ、様々なご苦労の中で成功に導いて下さいました。

長年の御奉仕に改めまして深く感謝申し上げます、その一途なお姿に心からの敬意を表します。

この度、御退任なさる皆様方、誠にありがとうございました。

また、新たに総代に就任された大梶成美様、矢野純一様、竹内誠様、坪倉幸一様には、お世話になることばかりではございますが、鎮守の森と祭儀を護り、次世代に弛むことなく継承すべく一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。